

3. 地域介入型研修報告（平成 15 年度重点研修）

平成 15 年度 母子保健スキルアップ研修会

研修会実績と評価(1)

平成 15 年 7 月～平成 16 年 2 月 午後 2 時から午後 4 時 30 分まで 年 4 回のシリーズ	
講師及び 助言者	講師 岡崎市保健所 所長 澁谷 いづみ 国立保健医療科学院 主任研究員 福島 富士子 助言者 健康福祉部保健医療課 主査 河合美子 健康福祉部児童家庭課 主査 検校 規世 瀬戸保健所豊明支所 主査 杉浦 加代子 半田保健所美浜支所 主査 谷川 隆子 知多保健所 課長補佐 小島 修子 あいち小児保健医療総合センター 主査 中澤、塩之谷
テーマ	すこやかな親子を育てる市町村保健師の役割 第 1 回 講演「すこやかな親子を育てる市町村保健師の役割」 第 2 回 グループワーク「健診後のカンファレンスを考えよう」 第 3 回 事例検討「子育て支援の事例を検討しよう」 第 4 回 グループワーク「実践したことを話し合おう」
対象者及び参 加者数	出席者数 実人員 41 人 延べ人員 108 人 内訳 市町村の保健師経験 5 年以上で研修に 4 回ともに出席できるもの 出席者数 実人員 27 人 延べ人数 94 人 第 1 回（26 人）第 2 回（26 人）第 3 回（22 人）第 4 回（20 人） 1 回目の講演については、保健所・市町村保健師対象で 1 回のみ 出席者数 14 人

【第 1 回】 平成 15 年 7 月 22 日（火） 午後 2 時～ 4 時 30 分まで

・講演「すこやかな親子を育てる市町村保健師の役割」

講師 岡崎市保健所所長 澁谷 いづみ

グループワーク

【第 2 回】 平成 15 年 9 月 18 日（木） 午後 2 時～ 4 時 30 分まで

グループワーク「健診後のカンファレンスを考えよう」

<話し合った内容>

- 1 カンファレンスの目的
- 2 ケースをカンファレンスに出す目的とケース選定の現状とあり方
- 3 目的とケース選定について職場で共有、認識しているか。その現状とあり方
- 4 カンファレンスの進行の仕方についてその現状とあり方
- 5 ケアプランは、何のために、いつ、方法、支援内容について現状とあり方

6 グループワークをして職場で改善しようとおもったこと。

その他

* 事例検討様式を渡し、子育て不安の事例を様式に記入し事前に提出させた。

* 1月末までに各職場で健診の改善に向けて取り組み記録様式に記入し提出をさせた。

【第3回】平成15年11月6日(木) 午後2時~4時30分まで

事例検討 「子育て不安の事例」

受講者が提出した全事例を事例提供者が考えている方針でよいかを検討

【第4回】平成16年2月20日(金) 午後2時から4時30分まで

1 改善に向けての取り組み報告及び全体討議 助言者：国立保健医療科学院 福島 富士子
職場で改善した結果を7市町村から報告、その後全体で質疑

7市町村からの報告

- ・ 情報の共有のために事前カンファレンスの実施
- ・ 子育て支援の視点からの健診全体を見直した。
- ・ ケースフォローを地区担当に任せずカンファレンスでプランを立案
- ・ スタッフ(パート職員含む)が目的意識を持って取り組めるように質の向上を図った。
- ・ 事後管理台帳にカンファレンス方針を具体的にたてて記入をするようにした。
- ・ 健診フォロー児のケース検討を定例化
- ・ 母子やその他の記録を回覧し情報の共有を図った。

助言

- ・ 事例を1人で抱え込む現状の中で、共有するためのカンファレンスが重要
- ・ カンファレンスの目的は、ケースのプランを決定すること。
- ・ 母親の力をアップするためには、どのような資源が必要か智恵をだす。
- ・ 自分が元気でないと人を元気にさせられない。
- ・ 母と子どもが楽しいと思うことで育児不安が少なくなる。
- ・ 評価指標は、常に持ち事前に書いておく。評価の方法も考えておき、根拠を書いておくと第三者にわかりやすい。目標がはっきりしておくと評価しやすい。
- ・ 保健師は、勉強もしているし知識もある。やる気を起こすこと。訪問するということは、気にならないが、一般の人はなかなか入れない。訪問し合うことで「実は・・・」と話してもらえ。訪問に出て行くことは大切

2 グループワークと発表

テーマ 母子保健スキルアップ研修を受講して

- ・ 日常業務での疑問を話し合うことができた。
- ・ 健診を保健師間で見直すことができた。
- ・ 他市町村の様子を聞きながら振り返ることが出来た。
- ・ 他市町村の情報がわかりよかった。
- ・ ケースフォローやケアプランを見直すきっかけとなった。
- ・ 個人のスキルアップが達成できたか疑問であるが話し合うきっかけとなりよかった。

研修会実績と評価(2) 研修者によるアンケート評価 アンケート回収数：23枚（回収率85.2%）

研修会名	平成15年度 母子保健スキルアップ研修	
研修者の職種	市町村保健師27人	
研修者の経験年数	5年～9年：17人、10年～14年：4人、15年～19年：3人 20年：1人	
研修者の性別	女性：27人	
アンケート質問項目（自由記載）	グループワークで多く取り入れてきましたがいかがでしたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ思いや悩みをだかえている市もあることが分かり、情報の共有が出来た。 ・各市町村の取り組みを聞くことが出来刺激になった。 ・色々なやり方、考え方に触れてよかった。同じ規模の市町村だったので、問題も共有しやすかった。 ・いつもと違う意見が聞けて、振り返る機会になった。 ・同じ規模の市町村の保健師と話すことが出来、自分の町の良い部分を参考にしてもらうことが出来た。 ・管内以外の保健師との話し合いはとても参考になり、視野を広げる必要性を強く感じた。 ・グループワークは大変であるが、言葉にすることで自分を見直しをする良いきっかけとなった。 ・情報交換に時間がかかり、内容がつかめにくかった。ゆっくり情報交換をしたかった。
	1年かけ4回シリーズで実施しましたが如何でしたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・3ヶ月に1度位のペースなので、負担にはならなかった。 ・1年を通しては、仲間づくりのきっかけともなりよかった。 ・4回コースで深めていくことで職場への還元や実践ができる。 ・宿題を持ち帰り、実践するには、この期間でよかった。 ・単発で終わらないのはよかった。 ・1つのことに対し、深く取り組むことができよかった。 ・実際きついところがあったが、得られることも多かった。回数がないと成果が得られない。 ・毎回宿題がでて負担が大きかった。 ・改善点を実践する期間があって良かった反面間隔が長すぎる。 ・4回シリーズをもう少し間隔を狭くしてほしい。
	研修の中で参考になったこと	<ul style="list-style-type: none"> ・他市町村の情報がわかった。(3人) ・健診に焦点をあてたこと。 ・保健師はやっぱり訪問が大事 ・ケースのアセスメントし評価をしていくこと。 ・カンファレンスについて考え、改善できたこと。 ・健診の改善に向けて取り組みができた。 ・学んだこと、気づけたことを実践するところまでサポートしてもらえたことで生きた研修となった。 ・いろいろな視点をもつことができた。(記録、カンファレンスの目的、家庭訪問の大切さ)

保育リーダー研修会 軽度障害を持つ子どもたちの理解と保育

1 企画の趣旨

障害児保育の充実により、多くの障害を持つ子どもが保育園で生活するようになり、それなりの成果をあげている。しかし、保育現場サイドから見ると、障害を持つ子どもたちをどのように理解し、どのように保育すれば良いかについての系統的な理論や技術が十分に提供されているわけではないため、子どもを直接担当する先生方は、高い情熱と意欲を支えに、子どもたちの問題行動に試行錯誤と悪戦苦闘の連続の日々である。

そこで、地域で保育を進めて行く上で、中核的な役割をになう保育士を養成することを目的とし、小児保健医療総合センター保健室の調整機能と総合診療部の総合的な療育機能を活用し、障害を持つ子どもたちの理解と対応の基本的な知識と技術について、学習する機会を提供する。

2 研修の対象者

市町村で軽度障害を持つ子どもたちの保育の推進に関して、技術的な面での中心的な役割を担うことが期待される中堅の保育士 30名

3 研修の方法

原則として、1時間程度の講義と1時間程度の事例検討を行う。

事例はその回のテーマに添ったものを参加者から事前に提供していただく。

参加者全員が園内で特定の保育・観察対象児を決め、継続的な観察を実施していただく。

その結果を、センター支援のもとに総括し、所属地域の保育園長会等で報告いただく。

4 研修の日程とテーマ

平成15年7月8日(火) 基調講演 「軽度発達障害の理解」

広汎性発達障害と注意欠陥多動性障害を中心にー

講師 心療科 医師 浅井 朋子 座長 総合診療部長 山崎 嘉久

平成15年9月2日(火) 「聴覚障害の理解と子どもの保育」

講義 言語聴覚士 森河 孝夫

事例検討助言 臨床心理士 大河内 修

平成15年10月7日(火) 「視覚障害の理解と子どもの保育」

講義 視能訓練士 川瀬 芳克

事例検討助言 臨床心理士 大河内 修

平成15年11月11日(火) 「運動機能障害をもつ子どもの理解と保育」

講義 理学療法士 竹内 知陽

事例検討助言 臨床心理士 大河内 修

平成16年1月20日(火) 「軽度障害児の遊びと玩具」

講義 保育士 原 純子

事例検討助言 臨床心理士 大河内 修

毎回 午後2時から4時まで

平成16年2月～3月

所属地域の保育園長会等で、各参加者から事例報告を実施する。